

明石工業高等専門学校図書館

図書館報

第44号 平成20年12月

目次

司馬遼太郎「坂の上の雲」	(1)
郷土資料ガイド(5)	(2)
自著紹介	(2)
私と読書	(3)
図書館と私	(4)
読書感想文コンクール	(5)
推薦図書	(9)
利用統計	(10)
利用案内	(11)
海外の図書館	(12)

司馬遼太郎「坂の上の雲」について

京 兼 純

「まことに小さな国が、開化期をむかえようとしている」で始まる本書は、昭和43年(1968年)から昭和47年(1972年)の4年3ヶ月にわたって、産経新聞夕刊に連載された作品です。その後、各種単行本、たとえば文庫本では全8巻として出版され、これまで2000万部を超えるベストセラーとなっています。新聞に連載された時期は、東京オリンピックが終了し、北千里で日本万国博覧会が開催され、我国が高度成長の真只中にあり突き進んでいるときでもありました。また、世界銀行から莫大な借金をして、高速道路、東海道新幹線、ダム建設等々インフラ整備を行っており、小説が完了した昭和47年は、第一期の高専(含、明石高専)が創設されてから、国公私立66校の規模で完成した年にもなっています。本書は高度成長と共に歩んできた、企業戦士や経営者のバイブル的なものともなっていました。

物語は、明治維新を経て近代国家の仲間にはいり始めたばかりの日本を、伊予松山で生まれた正岡子規と秋山好古、真之兄弟の活躍を通して描いたものです。前半は病に冒されながら俳諧の革新に捧げた子規、海軍の道を選んだ同級生の真之、日本騎兵を育成した兄、好古との交流等を高揚する明治という時代の風景の中で炙り出し、後半は日露戦争において戦勝へと導き、重要な役割を果たした好古と真之を軸にして話が展開しています。

「坂の上の雲」は36年前に書かれた小説ですが、NHKで映像化されることがようやく決まり、平成21年秋からスペシャルドラマとして放映されます。バブル経済が弾けた後の日本は、産業構造の変化、価値観の喪失、引きこもりやニートの出現、企業や官公庁での負の連鎖など、混迷を深め進むべき道を探しあぐねている状況が続いています。NHKの報道資料のなかに、「この作品に込められたメッセージは、日本がこれから向かうべき道を考える上で、大きなヒントを与えてくれるに違いありません」と書かれています。坂の上の雲という題名についての解釈は、本書を読んだ学生の皆さんに任せたいと思います。

(きょうかね じゅん 校長)

「坂の上の雲」 司馬遼太郎著
文藝春秋 1969-1972年 請求記号:913.6.S1-6

郷土資料ガイド（5）

長谷川 博史

兵庫県国土観光連盟「**兵庫縣観光と産業地圖**」（1948年）（090.6.H）は、兵庫県内の特産品や文化遺産をイラスト入りで描いている。戦後2年余りの占領下に発行されたため、ローマ字表記が多用され、特産品の内容も今とはずいぶん異なる。明石近辺では、伝統的な瓦・清酒・海産物に加えて、大久保の川西機械製作所通信機工場において当時日本最高水準の製品を生産していた「真空管」や「ラヂオ」が大きく描かれていて、時代をよく映しだしている。

郷土資料には、このほかに1949年発行の『**東播観光と産業案内**』（091.029.T）、飾磨郡鹿谷村『**農山村の発展計画郷土再建展覧會記録**』（091.431.K）、1950年発行の『**日本貿易産業博覧會 神戸博會誌**』（092.16.K）など、占領期の記録がある。それらは、戦後の経済的混乱のなかで、各地域社会が様々な工夫を積み重ねて新しい時代を切り開く熱意に満ちていたことを、物語っている。



（はせがわ ひろし 一般科目）

BOOK *BOOK* *BOOK*

自著紹介

丸茂 榮佑

『工業熱力学』 丸茂榮佑著
コロナ社 2001年 ISBN4-3390-4461-X
請求記号:501.26.M 登録番号:099342

「工業熱力学」は、2001年（平成13年）9月に初版第1刷を発行してから、毎年発行を重ねて、現在では第8刷目となります。本書は、コロナ社の機械系教科書シリーズとして企画されたなかの一冊で、元大阪府立高専教授（現名誉教授）の木本恭司先生との共著です。内容は、高専や大学の機械系カリキュラムの工業熱力学に準じており、主として、熱と仕事の相互変換に関する基礎理論についてのものです。執筆の方針としては、基礎的な事項を精選し図・表などを多用してわかりやすいこと、演習問題には詳しい解答を付け自習も可能なようにすることでした。その方針で執筆を進めましたが、工業熱力学の教科書はすでに優れたものが数多く出版されており、それらを参考にすればするほど特徴を出すのに苦心しました。そんなときには、黒板の前で学生に講義してきた、その場面を思い出して執筆を続けたので、本書は、高専での講義なしには生まれなかったものです。

（まるも えいすけ 機械工学科）

私 と 読 書

大森 茂俊

『偽善エコロジー』 武田邦彦著
幻冬舎新書 2008年 ISBN978-4-344-98080-8
請求記号:519.0.T 登録番号:100949

環境問題は10年以上前から問題となっておりさまざまな対策が行われている。特に今年2008年は京都議定書の約束期間に入り、各方面でさまざまな環境対策がより一層盛んに行われている。そういう私もかれこれ10年位前から「環境にやさしい加工」と銘打って研究を行っている。しかし、最近研究が進めば進むほど現在盛んに行われている「エコロジー」は本当に地球に優しいのだろうかと思うようになった。そんな時立ち寄った書店で本書を目にした。特に「偽善」という言葉が私の「エコロジー」に対する思いと合致してつい購入してしまった。本書では、冷房28℃設定の矛盾など最近盛んに行われている「エコロジー」の矛盾について検証している。一般の視点と違った本書を読んで現在私が行っている研究を再確認でき、より一層理解を深めた気がする。一般とは違った視点で書かれた本を読むことも勉強になるんだなと思えた一冊です。

(おおもり しげとし 機械工学科)

BOOK *BOOK* *BOOK*

私 と 読 書

桑原 義文

『近自然の歩みー共生型社会の思想と技術ー』 福留脩文著
信山社サイテック 2004年 ISBN4-7972-2574-2
請求記号:517.0.F 登録番号:099250

私は明石高専に勤める以前は、ある建設会社に勤務していた。土木技術者として工事に配属され、幾つかの工事に携わってきた。しかしその中には共生型社会（自然に優しい）に相応しい工事は、私の担当したものの中にはほとんど無く、工事を離れてからそのような工事の受注が少しずつ増えてきたように記憶している。明石高専に勤務して2年目の平成16年、とある本屋で「近自然の歩みー共生型社会の思想と技術ー」という書籍を見つけた。私と同世代で著者の福留脩文は、自然再生や循環型社会の構築を目指す時代が到来することを若くして信じ、そのあり方を探った過程をこの本の中で書き留めている。彼はスイスを何度も訪れ近自然という思想と技術を日本人が自得せねばならないと記述している。このような思想で設計された工事を、その意図を理解できる技術者の下で、匠の技を持った職人が施工し後世に残してゆくことで、より良い自然環境の日本が実現されると思われる。

(くわばら よしふみ 都市システム工学科)

図 書 館 と 私

竜子 雅俊

明石高専図書館と運営面での関わりの最初は、30才台後半に初めて（の最後）図書館委員になった時である。委員会に出席して驚いたのは、新刊図書の購入経費のあまりにも少ないことであった。図書購入予算は寧ろ現在より多く百数十万円はあった。しかし、その約80%が「JIS」購入に充てられていた。どの学科にも関係ない分野を含む全分野のJISを毎年購入していた。学生諸君からは専門図書やCD等の購入希望は結構あったが経費がなかった。委員会の席で恐る恐る「JISより学生向図書の購入が先では？」と申し上げたところ、館長先生に「君は図書館の使命が解っていない。継続的に収集してこそ価値があるのだ」と一喝された。その約10年後に図書館長が回ってきた。気になっていた3件について何とかケリをつけることができた。①蔵書管理のコンピュータ化。②JIS経費を削って学生向図書購入費を増やす。③研究紀要のカメラレディ化。一番大変だったのは①であった。先ず10万冊余の蔵書データをコンピュータに入れなければならない。業者委託だと1冊200円、10万冊で2千万円となりここで頓挫する。歴代の館長さんも必要性は判っているが経費面で諦めていた。そこで、学生諸君の力を借りることにした。バイト時間給を平均的入力速度で割ると1冊20円と業者の10分の1になった。これで事務部長・会計課長を口説き落とし、電気工学科(当時)の3年生から約10名の協力者を募って2年間で終えた。②のJIS削減は、JIS本体ではなく、約半額のJISハンドブックにし、かつ半分ずつ隔年で購入することにして4分の1に圧縮して学生向図書費(CD等を含む)に回し、学生諸君から購入希望を募集して大量に購入した。当然のことながら入館者も大幅に増えた。③の研究紀要だが、当時既に有力学会誌等でも論文投稿はカメラレディ化が進んでいた。一高専の紀要に活字印刷で100万円の費用を掛けるのは勿体ない、とカメラレディ化を導入した。ここで費用を浮かせられたことで①のコンピュータ化に実現性を持たせることができたのかもしれない。

2年間の館長任期の終わり頃1月に阪神淡路大震災があった。開架図書は大半が床に落ちて本の洪水となったが、書架同士の上部を金具で連結していたために倒壊は免れた。閉架書庫の方は開架と向きが90度異なっていたためか、殆ど落下しなかった。しかし、神戸大学の図書館では書架同士の連結金具が飴のように曲り、多くの書架が将棋倒しとなった。学生の多い昼間だったら相当な犠牲者が出たのではないかと思われる。

話は8年ほど跳ぶが、平成15年の全国図書館大会(静岡)では図書館の安全管理がテーマとなり、震災時の状況を講演して欲しいと明石高専に依頼が来た。館長先生から「自分は震災時の図書館の様子を知らない。震災当時の館長に講演して欲しい」とお鉢が回って来た。

神戸大学の方が遙かに大変だったんだから神戸大学に依頼して欲しい旨申し上げたが、そのテーマが沼津高専の担当だったため、高専の方が頼み易かったらしい。神戸大学図書館の知り合いにお願いして震災時の情報や写真を提供していただいて講演した。「他人のフンドシで相撲をとる」という諺そのまま非常に気が引けたことを思い出す。

明石高専は高専の中では図書館利用者数が非常に多い。図書閲覧の他にCD視聴やTOEIC練習、単なる場所利用、等々理由は様々だろうが益々利用が盛んになることを望む。

(りょうこ まさとし 電気情報工学科教員OB)

平成20年度『読書感想文コンクール』入賞作品

『「蓄犬談」から見える死生観』

最優秀賞 建築・都市システム工学科専攻科1年 野村麻利恵

死ぬな、死ぬな、と太宰が吠える。生きろ、生きろ、と太宰が叫ぶ……。そう聞こえてはこないだろうか。

三十九年の生涯で四回も自殺未遂を繰り返し、ついに最後には玉川上水に入水心中した彼のこの作品からは、私はどうしても「死」というものが感じられない。むしろ「生」への執着が強いように思えるのだ。それもそのはず、この時期、彼は井伏鱒二の仲人で結婚をしており、精神的にも安定した健全な小市民であったのだ。

実際、これが書かれた中期と呼ばれる作品には芸術的に多彩な開花を示したユーモアに富んだものが多い。例えば、人生の苦悩や災難を克服していく「走れメロス」などは、(私の記憶では道徳の時間に習ったのであるが)実は熱海で、太宰に借金の人質にされた壇一雄がモデルになったと言われているからおもしろい。自分の意図に反して作品が一人歩きする。よもや精神修養のお手本として扱われようとは彼自身思いもよらないだろう。しかし、もの書きの醍醐味は、こういうところにもあるのではないだろうか。

さて、練兵場の隅に捨てられていた駄犬こそが、太宰そのものである。青森県金木村の六男坊として生まれ、両親の愛情乏しく乳母らによって育てられた彼は、選ばれし者を自覚する反面、自らオジカスという余計者意識を身につけ、破滅型の行き方をするセンチメンタリストである。苦悩の作家と呼ばれ、過労と飲酒と薬物で健康を害しながらも、十五年という短い作家生活の間に多数の作品を残したのは、まことに賞讃に値するのではないか。

嗅覚鋭く嗅ぎまわり、まるで駄犬の如く自分の居場所を確保しようと試みる。そして毒入りの生肉を食らっても、一人死なずに生きている太宰。成程、「蓄犬談」は読むと大層おもしろいが、カレの内面がポチへ投影されているのを読み取ろうとすればする程、笑いも失せて妙に悲しくなってくるのはなぜなのか。私は、自分が未熟であるとしか何も言い様がないのである。

弱冠二十歳の弱輩者である私が、太宰の死生観を読みとり語ろうなどとは恐れ多いことだ。しかし、敢えて言うとなれば、私は死なないということだけは確かである。いや、そう簡単に死ねないのだ。それは、肉親の病死、友人の自殺、列車での事故死を経験しているからだ。悲しむ人の多いことを知っているからだ。

私には、自虐的な行為の末の自殺は、今も将来も肯定することはない。日本ほど作家の自殺の多い国はないといわれているが、ひとりの作家の、ひとつの作品だけを呼んで極端に好き嫌いを判断してはいけなそう思っている。太宰は私にとっては、近寄りがたい作家の一人であったが、ユーモアに秘められたカレの本心が垣間見えることができたのは、やはり勇気を持って彼の本を手にしたおかげだと思っている。

(「太宰治 滑稽小説集／太宰治著木田元編」 みすず書房 2003年)



『蟹工船』

優秀賞 都市システム工学科2年 岸本 祐香

私がこの本を選んだ理由は、書店の入り口にこの本が平積みになっていたのを見つけたのがきっかけです。私はとても驚きました。この本は夏目漱石や森鷗外などの作品のように文学書、一般教養で読むものだと思っていたからです。私はなぜ今頃「蟹工船」が人気を博しているのかとても興味を持ちこの本を読むことにしました。



なぜ人気を博しているのか。あるメディアが「日雇い労働者やアルバイトなどの非正社員に人気がある。蟹工船の労働者と自分たちの境遇を重ね合わせ読んでいる。」と放送していました。この本に出てくる主人公たちは働く場所がない、貧しいから、といった理由で蟹工船に労働者として乗船します。蟹工船は「工船」ですが、工場法が適用されるわけではありませんでした。よって必然的に厳しい条件の下、プロレタリアの人々は働かされ、本当に耐え難い状況となり、監督に対しストライキを起こす、といった内容です。たしかに現代の非正社員も働きたくても仕事がない。一生懸命働いてもそれに見合った見返りが得られない。なので、さらに長時間辛い仕事を続けるという悪循環な状況になってしまう。また正社員ではないので社会保障なども受けることができない。そのことも含み正社員と非正社員の扱いの差について、争論が起きる。確かに重なる部分はある程度あるのかもしれませんが。

今プロレタリアという言葉はあまり耳にすることはありません。それは差別意識から来るものなのか、今現在そんな人はいない、という意識から使わなくなったのか理由は分かりません。しかしこの本が流行しているということは、共感し、自分をそう思う人が少なからずいるということです。この本が売れているということは日本の格差社会が深刻なものになっていると思いました。私はプロレタリアという言葉を使う日がまた来るのではないかと思います。

この本には資本主義に反対する考え、プロレタリア革命を促す内容が書かれています。この前ニュースで日雇い労働者の一人が「働いても、働いても報われない。いっそのこと戦争が起こればいい。そうすれば国が食事や生活の面倒を見てくれる。」と話していました。顔はいたって真面目で、この人はそこまで貧窮しているのかと驚きました。その他にも家も持たずネットカフェで夜を過ごし、お風呂もまともに入れず、といった人達もたびたび放送されます。いかに現在の日本に経済格差があるかよく分かります。もしかしたら日本にも共産主義の考えを持つ左翼の人達が増え、以前あった学生運動のようにまた運動が起こる日が来るかもしれません。私はふと格差社会を無くすには共産主義になれば良いのではないかと、と安易に考えてしまうときがあります。しかし、GDPが下がる恐れがあることや、現在、共産主義の国が少ないことも考えると資本主義にメリットが多いのでしょうか。いや選択肢は資本主義、共産主義の2つだけではないのかもしれませんが。私は知らないことばかりだと思いました。

日本の中でも大きな経済格差があり、世界で見るともっと大きな格差があります。私は、理想の域を越えて、全く現実味はありませんが、資本主義でも平等な社会、経済的に平等という意味ではなく、すべての人が頑張れば頑張った分だけ見返りがある、そんな世の中になったらいいと思います。そうすれば、不正を働いて不当な利益を得ようとする人が減るのではないのでしょうか。日本の政治家には、この夢のような話を実現してほしいとは言わないので、できるだけ早く日本の景気不安を脱却させ、正社員を増やし、少しでも経済格差の少ないみんなが平等に生きていける国づくりをしてほしいと思います。

(「蟹工船」／小林多喜二著 新潮社 2008年)

『クジラからのメッセージ』

優良賞 都市システム工学科1年 藤本 真希

私は、あの青く美しい海で泳ぐことが大好きです。そして、獲れたての新鮮な魚を食べることも好きです。しかし、環境汚染問題について知り、「私たちは太平洋、大西洋、インド洋というように海を区別していますが、本当は一つの海があるだけなのです。」という文を読んだ時、私は裏切られた気持ちになりました。何故かと言うと、今まで「新鮮な魚だ。」と思って食べていたものが、実は、有害化学物質によって汚染されており、私たちはその汚染された魚を食べているからです。中でも有毒物質は、わずかな量でも何年か食べ続ければ、それは私たちの健康を害するレベルにまで達するのです。けれども私は後に、環境汚染問題の原因を知り、私たちは裏切られたのではなく、私たちは魚や海、自然までを裏切ったのだということに気づきました。



この本は、ロジャー・ペイン博士の「オーシャン・アライアンス研究所」がマッコウクジラの体内に含まれる有害化学物質の濃度を測定するために、調査船オデッセイ号に乗り、五年半の月日をかけて世界各地を巡った時の航海日誌により構成されています。その日誌の中でロジャー・ペイン博士は様々な体験などを綴られています。「私たちが選んだ進路が間違っているだけでなく、破滅の原因であることに私たちはいつになったら気づくのでしょうか？」環境汚染問題の主な原因が、私たち人間が製造し、使用し、適切に処分されずに海へ流れ出る様々な有毒合成化学物質であると知った時、私は「人間はなんて愚かなのだらう。」と思いました。人間は地球と言う地があるからこそ存在しているのであって、私たちはその地球の全体の約七割を占めている海を汚染しているのです。また、地球温暖化問題については、小さな島が沈んできているなどの現状が浮き彫りにされ、京都議定書のように対策がたてられていますが、環境汚染問題は私が知る限りでは大々的に対策はたてられていません。地球温暖化と同様に、環境汚染の現状が浮き彫りにされないと対策をたてることができないのでしょうか。それではもう遅すぎます。いつだって海からのメッセージは発信されているのに、いつになったら気付くのでしょうか。

また、海へ流れ出た有毒合成化学物質は最初は低い濃度であるが、食物連鎖を繰り返すうちにどんどん増していくのです。そして巡り巡って私たちに戻ってくるのです。これは「自業自得」としか言いようがありません。悲しいけれど、環境汚染問題は人間によって作られたのです。もっとこの地球を大切にしていれば今ごろ様々な環境問題に悩むこともなかったと思います。

私は中学一年生の頃、国語の授業でクジラについて学ぶことができました。そこで私はクジラの声について詳しく学びました。クジラの声にはクリックやホイッスルなどの種類があり、仲間同士でコミュニケーションをとるためのものや、超音波のように跳ね返ってくる音をとらえて餌などの物体までの距離や大きさが分かるものがあると学びました。しかし私はクジラの声にはきっともっと優れた能力があると思っていました。能力というより魅力と言ったほうが良いかもしれません。そして私はこの本を読んで、どこか寂しげだけれどもしっかりした意思を持ったクジラの声を知ることができたような気がします。クジラは私たちに何かを話しかけてくれています。耳を澄ませば聞こえてくるはずですが、クジラの声と共に海に住む全ての生物の悲鳴が。

私はこの声に応えるために、二つの対策を考えました。一つ目は、合成洗剤の使用をひかえるという対策です。二つ目は、ペットボトルなどは捨てずにリサイクルするという対策です。一つ目では川や海に流れ出る合成洗剤の量を減らし、汚染の進行を防ぎます。二つ目はペットボトルやビニールなど捨てずにリサイクルすると、捨てて焼却される時に発生するダイオキシンなどを少なくできます。

私は自分で考えたこの二つの対策なら実行できると思います。私は「いつまでも青い地球であってほしい、美しい地球であってほしい。」と強く思うから、地球のために、海に住む全ての生物のために自分でできることを考え、行動したいと思います。そして、いつかまた元気になったクジラの声を知りたいです。「海を心から愛して。」私にはそう聞こえました。

(「オデッセイ号航海記」/ロジャー・ペイン著 角川学芸出版 2007年)

『人間と自然』

特別賞 機械工学科3年 栗山 僚

普段は読書などしない僕にとって読書は退屈なもので、自ら進んでやるものではなかった。しかし、宮沢賢治の「注文の多い料理店」、これだけは今まで読んできた本とは一味違ふと感じた。何度読み返しても掴みきれない宮沢賢治の世界観。「注文の多い料理店」には宮沢賢治のそんな魅力が詰まっていると思う。



二人の若い紳士が山の案内人と二匹の犬をつれて狩猟をしていたところ、案内人はどこかへ消えて、二匹の犬は山の凄さでめまいを起し、泡を吐いて死んでしまった。二人だけになった紳士たちは道に迷い、やがて西洋料理店「山猫軒」という一軒の西洋造りの家にたどり着く。その料理店には多くの扉があり、その扉をくぐるたびに二人の紳士にさまざまな「注文」が出され、彼らはなんの疑いも持たず指示に従い、最後の部屋で危うく山猫に食われそうになるのである。

二人の紳士とは身なりこそ精練されているものの、実は残忍でつまらない人間だ。「鹿の黄色な横っ腹なんぞに、二、三発お見舞い申したら、ずいぶん痛快だろうね。くるくるまわって、それからどたっと倒れるだろうね」、彼らは危険な山奥で狩猟を自分の欲のためだけに楽しみ、さらに忠実だった二匹の犬が死んでしまった時「じつにぼくは、二千四百円の損害だ」「ぼくは二千八百円の損害だ。」などと犬の命を金銭に換算するなど、人間性に欠けた面を多く見せている。そんな彼らが普段狩っているであろう山猫に逆に狩られそうになり、さらにそこを見殺しにした二匹の犬に救われるというのは、大いなる皮肉であり、さらには冷淡な扱いを受けても人間に手を差し伸べる自然の偉大さを表しているとも考えられる。この作品では人間の本質や自然と相対したときの小ささが巧みに描写されている。

二人は店側からの度重なる不自然な注文に対して「よほど偉い人たちが来ているのだろう」「よく気が付く店だ」などと都合の良い解釈をしている。二人はこの料理店の立派な風貌にまんまと騙されていたのだ。外面的なことばかり気にしている人間性に欠けた人間は物事の本質を見抜くことができず、このような単純な罠にも引っかかるであろうという、著者の挑戦的な皮肉が心にグサッとくると同時に、二人の紳士の間抜けさに著者のユーモアを感じる。さらに、最後には「いっぺん紙くずのようになった二人の顔だけは、お湯に入っても、もう元のとおりになおりませんでした。」とあるが、一度絶望に打ちひしがられただけで元のように戻れない、これこそが高慢な人間の脆さだ、と言わんばかりの表現であると考えられる。さらに、二人は自分達が狩られそうになったにも関わらず、山を下るときに山鳥を十円分かって帰るといふ行動を取るのだが、これは狩猟の成果を取り繕うための行動で、人間は反省できず同じ過ちを繰り返すおろかな生き物であるというメッセージが込められていると考えられる。

最後の、山猫に食われそうになる場面ではがたがたと震え、泣くことしかできない二人。人間は自身を自然の支配者であると考えがちだが、鉄砲や衣服などの「道具」を持たなければ、人間は無力で動物よりもずっと弱く、ましてや自然の支配者などとは高慢もいところだ。人間は自然によって生かされており、自然無しでは人間の存在など有り得ない。最後の場面で見捨てた犬に救われたことからこのことは明確である。

自然によって生かされる人間。その自然に甘えてふんぞり返って生きる人間。自分も他でもないその人間の内の一人であると痛感した。これから自分は自然に対して何ができるだろう？この本を読む前はこんなことを考えさせられるなんて、思いもよらなかった。

(「注文の多い料理店 / 宮沢賢治著」 新潮社 1990年)

学生用推薦図書・雑誌

推薦図書コーナーに開架しています。(以下、抜粋)

機械工学科推薦

- | | |
|---------|--------------------------|
| 500.0.N | モノづくり解体新書 SELECT 1 |
| 500.0.N | モノづくり解体新書 SELECT 2 |
| 532.5.S | 研削加工学 |
| 532.5.T | 研削加工の計測技術 最新の計測技術とそのノウハウ |
| 534.0.T | ターボ機械 入門編 新改訂版 |
| 雑誌 | 「日経ものづくり」 |



電気情報工学科推薦

- | | |
|----------|-------------------------------|
| 007.64.H | 新 Java 言語入門 シニア編 改訂 |
| 410.7.H | 大学編入試験問題数学/徹底演習 第2版 |
| 498.8.W | 日曜日のメンタルヘルス相談室 心の荷物がちょっぴり軽くなる |
| 雑誌 | 「日経 Linux」 |
| 雑誌 | 「トランジスタ技術」 |

都市システム工学科推薦

- | | |
|---------|----------------------------------|
| 007.6.T | Adobe Illustrator CS3 パーフェクトマスター |
| 007.6.Y | Adobe Photoshop CS3 パーフェクトマスター |
| 318.7.K | アジアの都市間競争 東京は生き残れるか |
| 361.7.T | 里川の可能性 利水・治水・守水を共有する |
| 518.8.N | まちづくり学 アイディアから実現までのプロセス |
| 518.8.T | 都市計画の理論 系譜と課題 |

建築学科推薦

- | | |
|----------|---------------------------------------|
| 501.34.S | 構造力学徹底演習 ステップアップで実力がつく |
| 520.33.F | 建築ヴィジュアル辞典 英和対照 |
| 520.79.K | 2級建築士試験 学科厳選問題集 2008 |
| 524.0.A | 建築のしくみ 住吉の長屋/サヴォワ邸/ファンズワース邸 |
| 527.0.S | ケース・スタディ・ハウス 1945-1966 カリフォルニアの刺激 |
| 527.1.E | Case study houses 1945-1962 : 2nd ed. |

一般科目推薦

- | | |
|----------|--------------------------------|
| 151.6.N | 不幸論 |
| 312.1.M | アメリカに使い捨てられる日本 |
| 404.0.I | 疑似科学入門 |
| 407.0.K | 科学者のための法律相談 知っておいて損はない 25 の解決法 |
| 507.23.W | 理工系のための特許・技術移転入門 |
| 545.88.F | アインシュタインの冷蔵庫 |
| 雑誌 | 「CNN English Express」 |
| 雑誌 | 「大学への数学」 |

詳しくは、図書館 HP (<http://www.akashi.ac.jp/lib/siryousuisen08.htm>) をご覧ください。

利用ランキング 2007.10.1-2008.9.30

— 図書 —

- ① 66回 「土質試験の方法と解説」
- ② 14回 「演習線形代数」
- ② 14回 「有機電子論解説」
- ④ 13回 「土木材料 最新」
- ⑤ 12回 「コンクリート工学」
- ⑤ 12回 「建設材料コンクリート」
- ⑤ 12回 「土質試験 基本と手引き」
- ⑤ 12回 「演習大学院入試問題 第2版」
- ⑨ 11回 「新 TOEIC TEST 基礎 1200 語」
- ⑨ 11回 「土質工学」
- ⑨ 11回 「確率統計」
- ⑨ 11回 「建築構造の力学」

- DVD -

- ① 25回 『パイレーツ・オブ・カリビアン 3』
- ② 23回 『プリズン・ブレイク 1.1』
- ③ 23回 『ハリーポッターと不死鳥の騎士団』
- ④ 20回 『トランスフォーマー』
- ④ 19回 『スリーハンドレッド』
- ⑤ 17回 『パイレーツ・オブ・カリビアン 2』
- ⑥ 17回 『オーシャンズ 12』
- ⑦ 16回 『パッチギ 世界は、愛で変えられる。』
- ⑦ 16回 『ブラダを着た悪魔』

— 雑誌 —

- ①「新建築」②「A+U 建築と都市」③「新建築・住宅特集」④「住宅建築」⑤「TOEIC Test プラス・マガジン」

図書館利用状況 (平成15年度から平成19年度)

項目 / 年度		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	
年間	入館者数	時間内	52,295	54,993	44,711	39,850	39,449
		時間外	12,612	13,749	11,724	11,116	8,681
		計	64,907	68,742	56,435	50,966	48,130
	AVルーム	計	4,891	3,948	3,987	3,272	3,720
	貸出者数	計	3,782	4,083	4,140	3,670	3,557
	貸出冊数	計	7,598	8,419	7,850	7,188	6,876
	開館日数	年間	276	281	286	294	295
一日平均	入館者数(時間内)	220	196	183	163	160	
	入館者数(時間外)	55	60	50	46	36	
	AVルーム	18	14	14	11	13	
	貸出者数	14	15	14	12	12	
	貸出冊数	28	28	27	24	23	

【開館時間】 時間内：平日 8:30～17:00 時間外：平日 17:00～20:00 土曜日 10:00～16:30



図書館利用案内

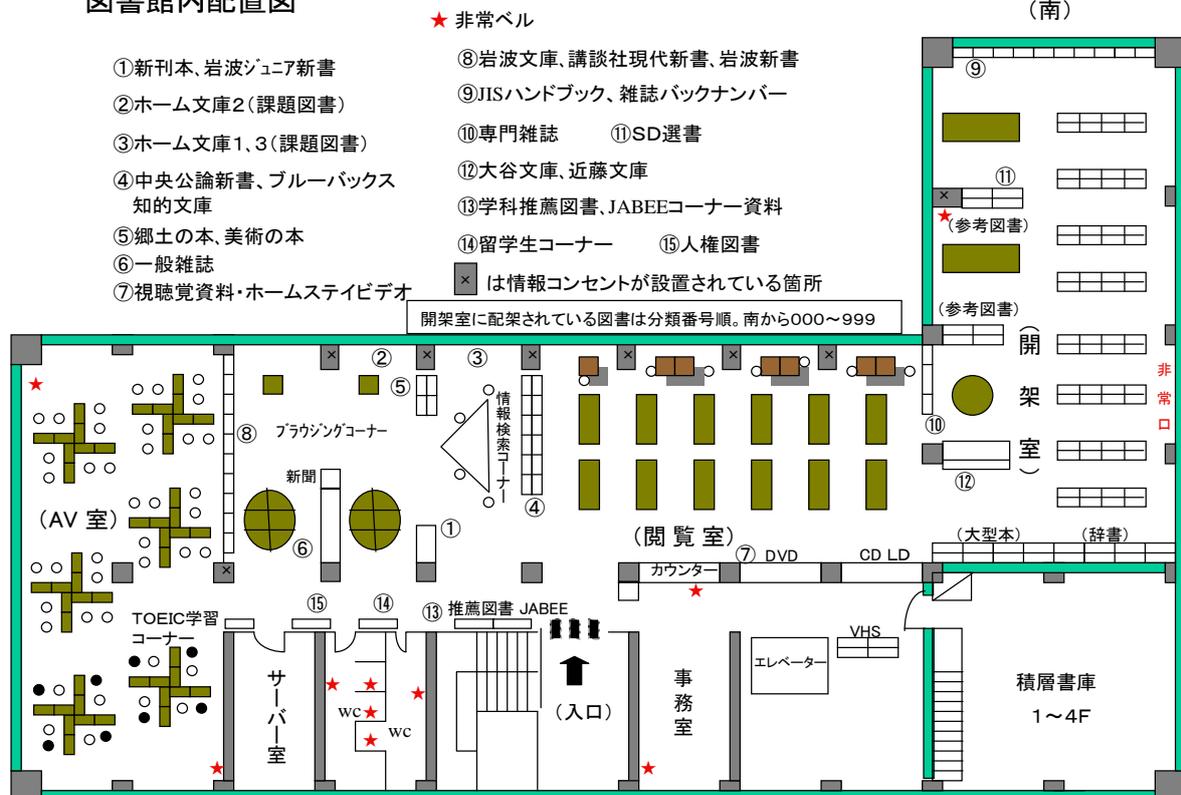
開館時間	
月～金曜日	8:30 - 20:00
土曜日	10:00 - 16:30
春・夏休み期間中	8:30 - 17:00
休館日	
日曜日・祝日 春・夏休み期間中の土曜日 年末・年始 12/26 - 1/5	

	貸出冊数	貸出期間
通常	5冊	2週間
卒研	3冊	2ヶ月

卒研貸出は通常とは別に貸出ができます。対象者(学科4年生以上、専攻科生)は卒研カードを発行しますのでカウンターで手続きしてください。

学科推薦図書・JABEE関連資料・留学生向図書・視聴覚資料・参考書など各コーナーに別置しています。

図書館内配置図



海外図書館事情

The Abdus Salam International Centre For Theoretical Physics(発展途上国における高等教育や研究活動を育成する目的で設立された機関)の図書室について

面田 康裕

スロベニアとの国境に位置し旧オーストリア領であるが故に所謂イタリアとは異なった趣の街並みを持つトリエステ市街から36番のバスに乗り、早朝から海辺でバカンスを楽しむ人たちを横目に途中下車し煌めくアドリア海に浸かる誘惑に駆られながらも終点まで行きハプスブルク家の唯一の海辺の別荘であった Miramare 城をいだく閑静な公園内を小鳥の囀りを耳触りに思いながらしばらく歩くと現在私が所属している The Abdus Salam International Centre For Theoretical



Physics (以下では ICTP と略記) に至るわけであるが、そういった方法で研究所まで行くことなど稀にしかなく、たいていは自転車でバスと競い合いながら汗だくになって ICTP の Leonardo da Vinci Building、昨年度までは Main Building と呼ばれていた建物に辿り着く。ICTP の図書室は Leonardo da Vinci Building の一角、私の研究室からは徒歩十秒程度の距離にあり、そこでは発展途上国から留学してきた多くの学生が熱心に学んでいる姿を目にする。そうした留学生の一人であるカメルーン

出身の学生としばしば話す機会があるが、同年代の日本の学生と比べ考え方や行動は同じようなものであり、やはり世界中どこに行っても人間なんて似たようなものなのだろう、などと思いつつ停止としか言いようのない紋切り型に落ち着いてしまう。さらにそうしたことを自覚しながらもイタリアの雰囲気のためか図書室の片隅のソファに体を沈め思考停止を楽しむことになる。このように書いているとしばしば図書室を利用しているかのようであるが、実際に図書室へ行くのは月に数度程度でしかなく、漂う香りに誘われて日に何度もエスプレッソを飲みに行く研究室隣のバルには利用頻度の点においてまったく及ばないの言うまでもない。イタリア、特にトリエステのバルで飲むエスプレッソは極上である。

(おもだ やすひろ 一般科目)

【掲示板】

- ☆ 平成18年度より試行として学生の定期試験開始1週間前及び試験期間中の日曜・祝日に、図書館を臨時開館しております。開館時間は、土曜日と同じです。
- ☆ 図書館は一般の方へも開放しており、利用登録を行えばどなたでも利用できます。利用できる資料は、館内所蔵の図書・雑誌です。

図書館ホームページ <http://www.akashi.ac.jp/lib/index.html>

【編集後記】

図書館報第44号をお届けします。お忙しい中、原稿をお寄せくださった皆様ありがとうございます。本号の各記事が読者や図書館の利用に役立っていただけると願っています。

明石工業高等専門学校図書館報 第44号 2008年12月発行

編集・発行 明石工業高等専門学校図書館 〒674-8501 明石市魚住町西岡 679-3 (078)946-6051